

大牟田市立羽山台小学校

1 本校のESDの特徴

本校では、福祉教育を中心に据えながらESDを推進している。1年生から6年生まで発達段階に応じながら計画的に福祉教育を継続し、住みよい社会をつくるために思いやりや助け合いの心を持つ子どもの育成をめざし、主に生活科や総合的な学習の時間において実践している。また、思いやりや助け合いの心を発揮する対象を人だけではなく、ものやことにも広げることができるように環境教育とつなげて実践している。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

<プロジェクト名「羽山っ子だれかのためにプロジェクト」>

- (1) 1年生「むかしからのあそびをしよう」(生活科1月)
- (2) 2年生「おれいの気持ちをつたえよう」(生活科2月)
- (3) 3年生「よりよいくらしについて考えよう」(総合的な学習の時間10月)
- (4) 4年生「わたしたちの生活について考えよう」(総合的な学習の時間2月)
「身近なかんきょうについて考えよう」(総合的な学習の時間9月)
- (5) 5年生「住みよいくらし」(総合的な学習の時間5月)
「大牟田の環境について考えよう」(総合的な学習の時間10月)
- (6) 6年生「心のふれあい、伝えあい」(総合的な学習の時間10～11月)
「これからの環境について考えよう」(総合的な学習の時間9月)

3 特徴的な活動事例

<3年生「よりよいくらしについて考えよう」(総合的な学習の時間10月)>

(1) 目標

- ①視覚や聴覚に障害がある方との交流会を通して、生き方を学び、また互いのよさを分か
りあうことで、これから生活範囲が広がっていく段階において、共に生きていくことの
大切さに気付くことができるようにする。
- ②視覚や聴覚に障害がある方とのふれあいの仕方について考え、互いの思いや願いが通じ
るような行動の仕方ができるようにする。

(2) 実践の展開

子ども達は、国語科教材文「盲導犬の訓練」の学習を経て、その内容と関連付けて視野が広がってきている。子ども達は自分のことだけではなく、周囲のことに目を向けることができるようになってきている。また、身近な生活の中に様々な不自由を抱えている方々がいらっしゃることや配慮された施設設備・道具の工夫に気付くようになってきている。

そこで、総合的な学習の時間で単元「よりよいくらしについて考えよう」において以下のような学習に取り組んだ。

①点字教室

目が不自由な方が道路を歩きやすいように、点字ブロックがあることや駅の券売機などに点字が用いられていることを子ども達は知っている。

しかし、点字がどのようにして読み取られるのか、またどんな仕組みで読み取られるのかは知らない。そこで、



【点字教室の様子】

GTとして社会福祉協議会から来ていただいて点字教室を行った。この学習では、点字の仕組みを教えてもらったり、実際に点字による文字を作成する体験活動を行ったりした。

これらの活動を通して、子ども達は、目が不自由な方が文字を一文字一文字読み取っていくことの大変さに気付くことができた。また、目が不自由な方が文章を読めるように点字に翻訳する方々がいらっしゃることに気付くことができた。

②障害がある方との交流会

視覚や聴覚に障害がある方を招き交流会を行った。

それぞれの交流会の内容は、体験談を聞くこと・話していただいたことへの質問が中心であった。



【目が不自由な方との交流会】 【耳が不自由な方との交流会】

お二人に共通することとして、目が不自由になったり耳が不自由になったりして、その苦しい状況乗り越えてきた前向きな生き方がある。子ども達は、そのような生き方から、もっと調べてみたいという意欲を持つことになり、その後、報告会を行った。

聴覚に障害がある方との交流会では、手話を教えてもらった。歌のさびの部分を手話で表すことができるようになり、手話を取り入れて歌を歌うことができるようになった。

2月の学習発表会では、手話を取り入れた歌を披露することができた。

【手話を取り入れた学習発表の様子】



(3) 成果と課題

今までは「障害のある方は大変だ」という思いがあったが、視覚や聴覚に障害がある方との交流会を通して「障害がある方も、いろいろな趣味を持って前向きに生活を楽しんでいる」ということを知り、見方が広がった。

課題は、総合的な学習の時間や発表会など学校の中だけにとどまってしまい、日常生活の中で自ら進んで関わりを持とうとするまでには至っていない。

4 本年度の成果と課題

○成果

これまでの活動の中で、次のような子どもの姿が見られるようになった。教育の質の向上に効果があったと思われる。

- ・子どもたちに高齢者の方や体に障害がある方に対する思いやりの心が育ってきた。
- ・自分の思いを他者に伝えようとする意欲や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育ってきた。

○課題

本校における福祉教育を中心としたESDの取組は、何より継続が大切であるとの考えから、毎年着実に取り組んでいくようにするとともに、各学年の発達段階に応じながら内容を系統立てて取り組む必要がある。

また、学校だけで完結させるものではなく、家庭や地域、事業者等との連携をさらに密にしながら、共生の意識や意欲、実践力を養っていくようにする。

大牟田市は1月に断水があった。他者のために自分にできることを考え、動ける子どもがどれだけいたのだろうか。そんな臨時休校の折りに、子どもにどんなことを伝えるのか、教師の意識を高めることも大事である。